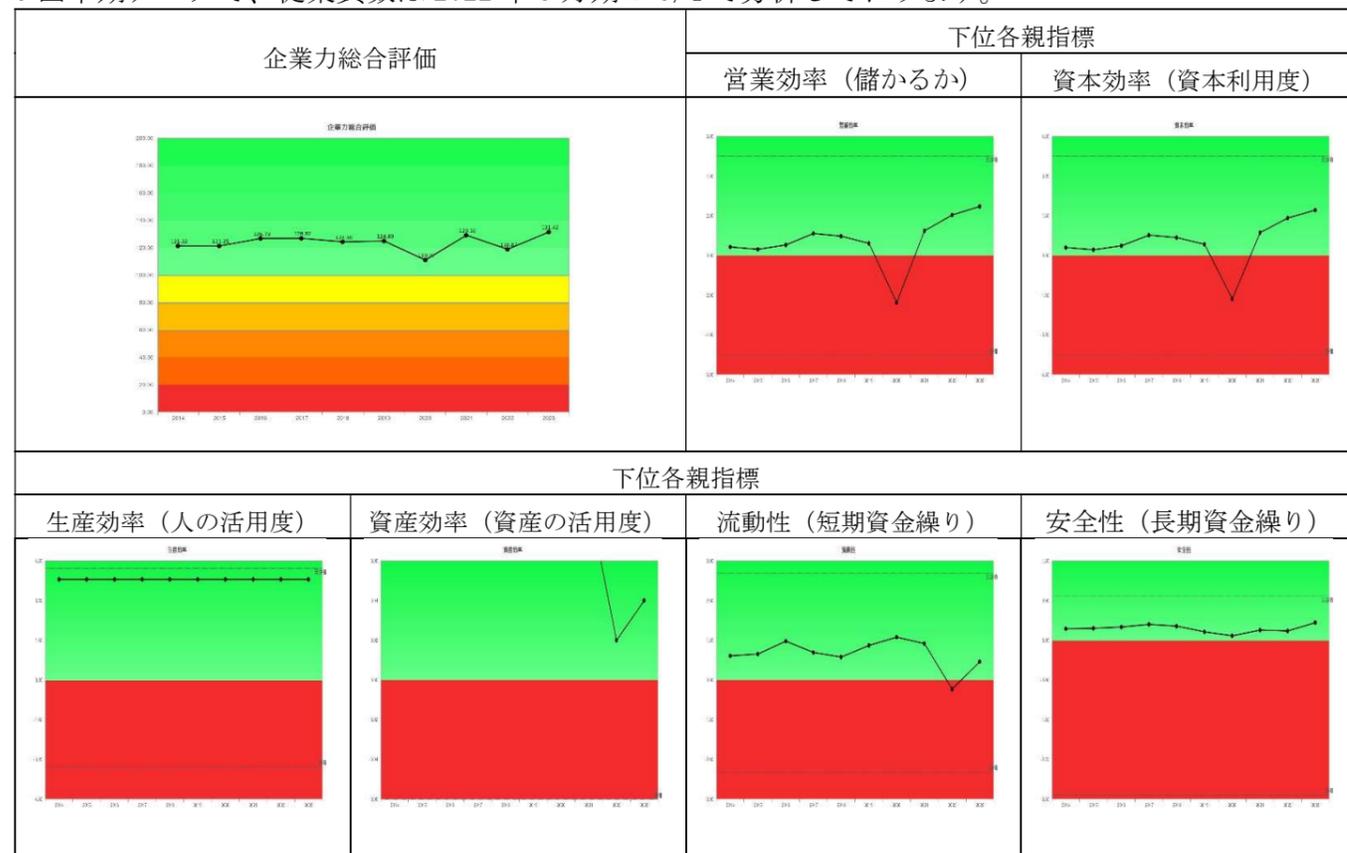


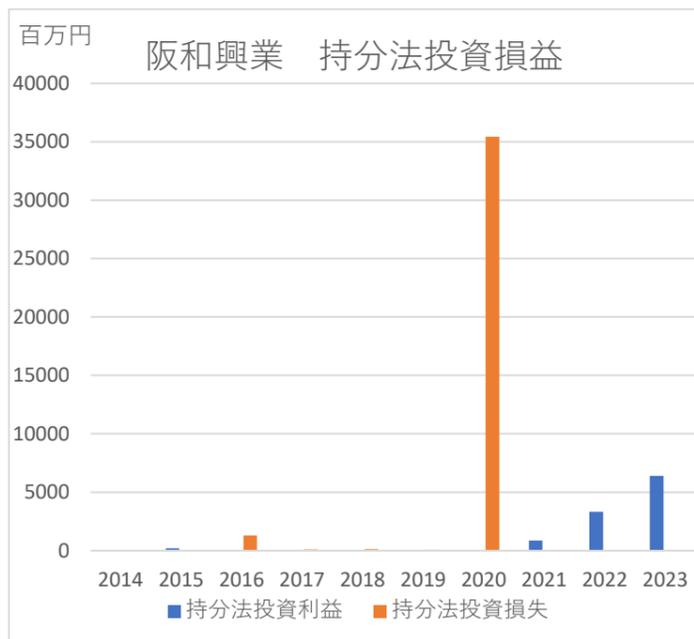
鉄鋼、リサイクルメタル・プライマリーメタル、食品、エネルギー・生活資材の商社、阪和興業株式会社は、子会社 88 社・関連会社 25 社、年間連結売上高 2 兆 1640 億円です。

阪和興業株式会社の 2014～2023 年 3 月期までの 10 年間の連結財務諸表を分析しました。2023 年は第 3 四半期データで、従業員数は 2022 年 3 月期の 3/4 で分析しております。

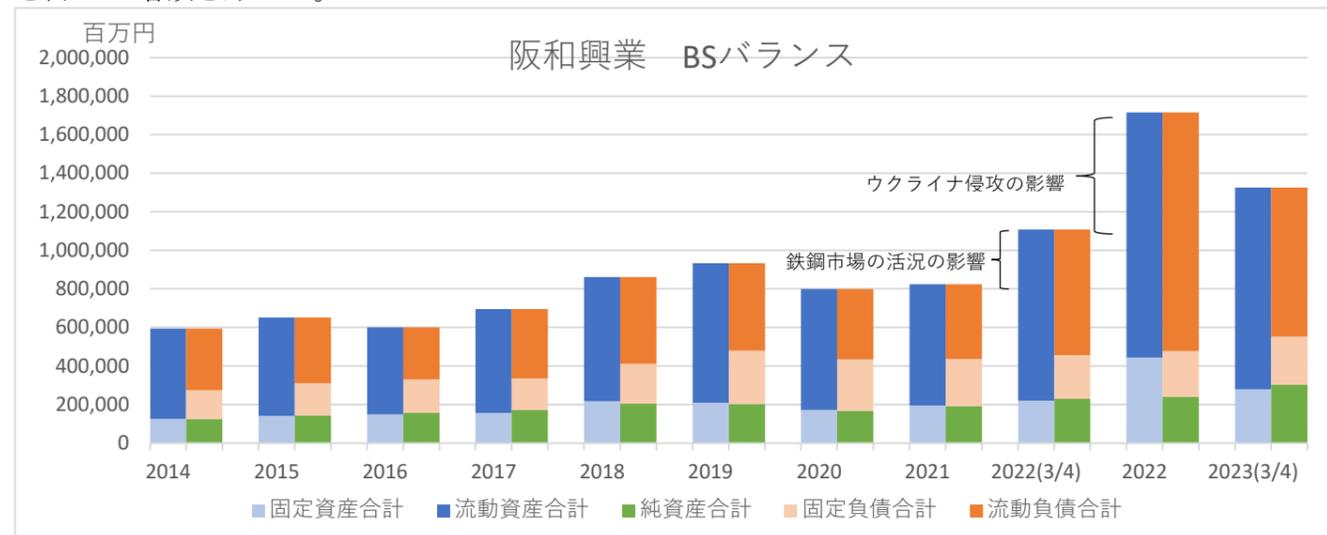


企業力総合評価の改善トレンドは営業効率・資本効率が支えている。2020 年の営業効率・資本効率の悪化が安全性に派生し、悪化を引き起こしました。2022 年総資産が急増し(資産効率の悪化)、財務体質(流動性・安全性)が悪化したが、2022 年 12 月(第 3 四半期)には戻しています。子会社買収は 2014 年 4 社、2015 年 2 社、2016 年 3 社、2017 年 6 社、2018 年 4 社、2019 年 1 社、2020 年 2 社、2021 年 1 社で、2022 年以降はゼロ。2016 年には「負ののれん発生益」が 11 億円計上されており、業績の悪い会社も積極的に買っているといえます。

2020 年に営業効率が大きく赤信号領域に入っているのは、持分法投資損失が 354 億円、投資有価証券評価損 66 億円が原因です。この損失以降、管理レベルを向上させ、持分法投資利益

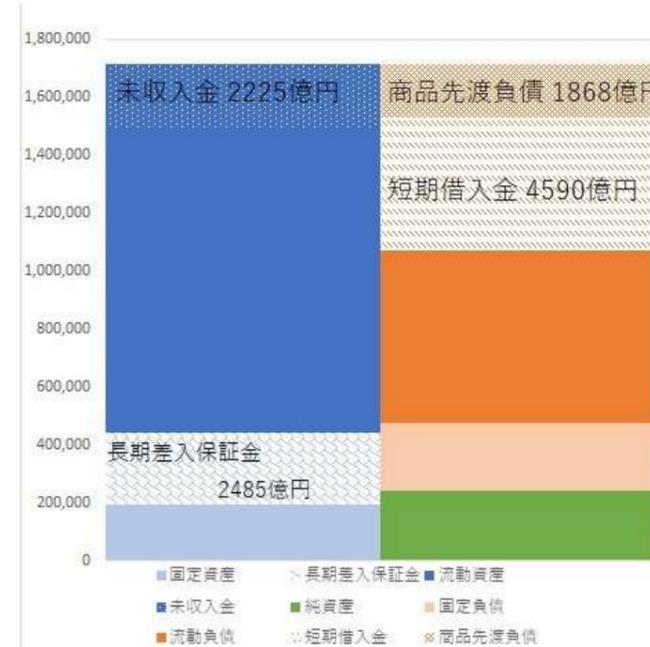


を計上し増額を始めた。



上グラフの 2022(3/4)は 2021 年 12 月末、第 3 四半期を示します。2022 は 2022 年 3 月末を示します。2021 年 12 月は鉄鋼市場の活況、2022 年 3 月はウクライナ侵攻による同市場の高騰の影響で、ともに BS が膨らんでいます。市場価格の高騰が BS に及ぼした影響について、詳しくみていきましょう。

決算書は全く正直なものです。総資産の増加理由は勘定科目を見ればわかりますし、金額でその規模・リスクも把握できます。2022 年 3 月末の BS で特徴的なものを右に別表示しました。ロシアによるウクライナへの軍事侵攻で、ロンドン金属取引所において先物商品価格が急騰し、当該取引等に係る長期差入保証金(2485 億円)が発生し、その対応策として短期借入金(4590 億円・前からあるものも含む)による資金調達をしています。ヘッジ取引の時価会計処理により、評価損相当の取引先に対する未収入金(2225 億円)及び商品先渡負債(1868 億円)が両建てで増加しています。



2023 年第 3 四半期の営業効率の改善から、阪和興業は今のところ、ロシアのウクライナ侵攻への影響を上手く切り抜けているといえます。

但し総資産は戻りきらず、まだリスクを背負っているようです。

まとめ

子会社・関連会社の管理レベルを上げるなど、失敗をしてもリカバーする力を持っています。また、ウクライナ侵攻による世界的なインフレや、内外金利差で生まれる円安への阪和興業株式会社の対応が分かりました。BS を 3 か月(侵攻後から期末まではたった 36 日)で約 1.5 倍まで膨らませて、収益性を守ることでインフレを切り抜けるという臨機応変な対応に、大胆な社風が現れているように思います。

編集後記 この冬、大阪でロングブーツをはいた女性を見たのは 2 回でした。ロングブーツは大阪ではほぼ絶滅しました。(^^♪文責 JY

〒541-0052 大阪市中央区安土町 1-6-19 プロパレス安土町ビル 7 階 D 号 株式会社 SPLENDID21
tel 06-6264-4626 info@sp-21.com <https://sp-21.com>